

ベトナム編

## 大小多くの本屋がそろそろ 店舗数は今後減少か



(左)ブックストリート  
(上)さまざまな本が並べられている。  
(隣)マレーシアのマハティール首相の自伝の翻訳本も発売。

東南アジア諸国のなかでも珍しく、ベトナムには大小さまざまな本屋が各地にあります。マレーシアやインドネシア、タイでは大手出版社の本屋が占めますが、ベトナムでは小さな本屋も多く見かけるのです。

例えば、第2の街ホーチミン市には、観光客が多く訪れる中央郵便局横に「ブック・ストリート」というのがあります。150メートルほどの通りには両側に10軒以上の本屋があり、ベトナム語で出版された本が多く売られています。10年前はこのように整備されておらず、数店しかこの辺りにはありませんでした。カフェ備え付けの本屋もあり、コーヒー片手に本を呼んでいるベトナム人の姿を多く見かけます。

ベトナムの本屋は他国と比べても、本が圧倒的に多いのと品数が豊富な感があります。なかでも関心するのは、どの本屋にもベトナム人が書いた出版書籍だけでなく、翻訳本が多いこと。主に欧米でベストセラーになった英語の本を翻訳して出版しています。

世界の本を翻訳していくという作業はなかなか大変ですが、ベトナムには日本のように翻訳文化が根付いているといっていでしょう。インドネシアでも多数の翻訳本は見られますが、ベトナムのほうがその量は多い気がします。

そもそも翻訳して出版するにはかなりの労力がかかります。それでも、多くのベトナム人が世界の知識を吸収していきたいと思っているから立て続けに出版されていくのでしょうか。こういった知識吸収は国の力ともなっていく、本屋一つをみてもベトナム人のバイタリティーを感じるのです。

ベトナムには国营出版社を含めて出版社は160社以上。年間の出版点数は26,000点(2014年現在)(日本の場合は2017年時点で年間約75,000点)に上りますが、利益が出ている出版社はほんの3社だそうです。電子書籍やオンラインでの購入が可能になってきていることから、本屋の売り上げもなかなか難しくなっているようで、今後は小さな書店はなくなってしまうかもしれません。